



農とみどり通信 8月号



発行：NPO法人 せたがや喜多見 農とみどり

最近の出来事 1/2



小澤農園の南瓜(カボチャ)

6月始めて玉葱を収穫したマルチ畝の通路に早川さんご夫婦が西洋南瓜の苗を植えてくださいました。今回は親ヅルも子ヅルも摘芯せず、そのままツルを伸ばして育てました。人工授粉もほぼしないまま全くの放任です。それで良いのでしょうかと早川さんに相談をしてみました。ツルは伸びて花は咲けど実はならず気になっていました。それでも大きな南瓜が一つ収穫出来たので7月の「てづくり市」で販売しました。どんな味に出来たのか興味深いですね！8月に入ると、もう一つ大きくなってきました。そろそろ南瓜も終わりの時期です。もう出来ていないのでしょうか、探しに行ってみます！（鶴見）



NPO区画での タマネギ栽培レポート

NPOの農家さん畑栽培の初回の試みでタマネギを栽培しました。（6月市場）+（7月市場）+（笑恵館）+小島ハウスで販売、7890円の売上。この栽培は記念企画で11月に苗植付を14名で実施、その植付参加者への玉葱プレゼントあり。またNPOへの寄付3000円以上の方への返礼品にも使いました。栽培は反省多々ありますけど、初回としてはまずまず良しと小澤お父さんからの評価。来年はもっと上手にできる予定。（田島）

細長アキチ ハーブ園 ダイジェスト（今のヒトこま）

ハーブ園では、笠さんを中心に手入れをしています。笠さんから頂いたアロマティスカスという虫除けハーブは、もしかしたら食べられる？なんて話も浮上しています。その他にもその場で摘んで香りをたのしんだり、持ち帰って食事のアクセントにできるものもあります。ご興味がありましたら、ぜひハーブ園を覗きに来てください。9/7土曜日には、新しいハーブ園の看板設置イベント開催します。皆さまの参加をお待ちしています。（原野）





須賀神社の御祭り(8/2)レポート

須賀神社の湯花神事に、初めて参加してきました。神官の方が大釜で沸かしたお湯に竹を浸し？民衆に向けて竹を振り、竹についての釜の湯の事が、かかると1年間病気をしないという厄払いの神事とのこと。私は、参加してみて、須賀神社の在る姿を、湯花神事を通して、肌で感じる事ができ、また、無形民俗文化財であることも、初めて知ることとなり、とても感動しました。

後世に、繋残していきたい神事だと感じました。（レポート筆）

人新世の資本論斎藤幸平から読み解く“私たちはどう生きるか”

長い表題での意見交換の集まりを西村さんが開催しました。砧支所の第3会議室（8月10日）にて。今年の恐ろしい猛暑はヒト新世のテーマにぴったり情勢です。ネットにも呼び掛けて15名参加。つまり人類は爆発的に増えて地球の歴史という軸で新たに“人新世”と呼ぶ大きな歴史がはじまってるらしい。その中で西村半農半Xリーダーは田んぼや竹山竹取り、竹細工など新しい暮らし方を実践して提唱。農ベースの現代の生き方を模索。楽しい意見交換できました。またやるそうです。（レポート田島）



プランターのなか

春のプランターの中に土を入れる 大きいブロッコリーの菜の花を入れる 蝶やハチが集まって、大きい黄色は桜の花と共にスマホやカメラの中にも収まった。「ムリ」の声しか聞こえなかったなか、リヤカーに乗ったあの巨大な菜の花を忘れることはできない。土もブロッコリーの菜の花も持て来たのはドンさん。今プランターの中は「オクラと花オクラ」もう少しで花が咲く。これもドンさんが持て来た。喜び驚かすこと。私はどこに何を持っていこう。（原田）



＜対話＆懇親会＞

斎藤幸平から読み解く
私たちはどう生きるか

いよいよ酷暑の到来です。
まずは暮らしから見直しませんか？

* 話題提供：西村ユウカ／里山手編工連（和細工職人）
* 半農半創作の共財コミュニティを目指すも苦戦ちう。

>日時：8/10(土)15時～17時 * 懇親会別途
>場所：砧総合支所区民集会所 第1会議室
>成城6丁目2番1号（小田急線成城学園前駅北口下車徒歩3分）
* 定員：15名 * 参加費：対話会：無料／懇親会3千円
* 優待：「人新世の資本論」は読んでいなくても大丈夫です。

人新世の資本論

どう生きるか

君たちは
吉野源三郎

いじめ、差別、差別、学問 人間として
大切なことを問い合わせ続ける
永遠の名作！

65歳
実録！

歴史と風景



60年前 成城郵便局の辺りから、宮川さんのお家を望む
手前は麦畑（当時成城に長くイギリス人で画家のご夫婦が
住んでいて、ご主人が描いてくれたもの）



現在の宮川さんのお家と畑

成城にある畑 宮川（みやかわ）農園
「おれは上にいく」そういって宮川太郎
兵衛さんは「みやがわ」の濁点を取り
「みやかわ」とし、喜多見から今の成
城の地（上の台）に住まいを変えた。
鎌倉時代のことである。

当時家臣は戦のない時には畑をして
いた。宮川邦雄さんの先祖もそうだっ
た。

そして令和の今も、宮川さんの畑はそ
こに在る。「せたがやそだち」の幟が立
つ畑に、朝採りが珍しいと、水々しく
美味しい野菜を求めて人が集う。

「1回こわしたら戻らないよね、自然つ
てね」という宮川さん。また「残そうと
思ってやってきた」が先はわからないと
も。畑を持つ人だけが背負う問題で
はない筈だ。

多くの人の多くの視点が、よき方向に
向かうとの思いで、知恵やはたらきを
めぐらせたなら、奇跡とよばれるものが
目の前に開けることはないのだろうか。
(レポート原田光子)

細長アキチの日々

35度を越えるサウナのような猛暑も落ち着いてきました。夏バテでキュウリは枯れミニトマトも調子が悪いようです。

そんな中カボチャのバターナッツは元気です。

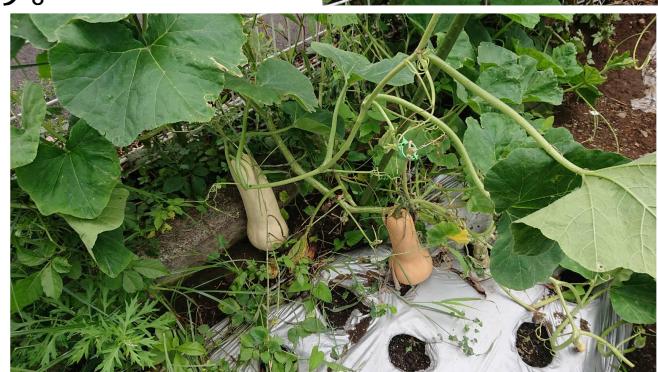
カボチャの中でもバターナッツは良く実が着く品種のうえ細長アキチでは虫が多く人工受粉しなくてもアリなどが花にたかってくれるお陰で沢山実を着けてくれます。

1株だけ植えたのですが今のところ6個収穫出来そうです。それ以外にもボロボロ実を着けていますし子蔓孫蔓がいまだに頻繁に伸びています。フェンスを利用して蔓を這わせて栽培しているんですが根元に近ければ近いほど実の数が多く大きな実が成っています。

いくつ取れるか楽しみです。

ただバターナッツは収穫のタイミングが難しく他のカボチャであれば蔓とつながっている部分がコルク状になれば収穫のタイミングになりますがバターナッツはコルク化しません。収穫のタイミングは緑がかったクリーム色から濃いベージュ色になったら収穫します。

人によってはバターナッツの尻が痛み始めた実を収穫して直ぐに調理するのが一番美味しいそうです。試しに今度やってみて報告します。



(記：どんちゃん 2024年8月27日)

平安時代からのお稻荷様と江戸時代のお稻荷様

当家が毎月1日と15日に式守しているお稻荷様は、その昔地元の11人衆で氷川神社とお稻荷さんを喜多見農家の守り神として祀り11人衆共同で式守をしていました。度重なる多摩川の氾濫でその都度神社・お稻荷様が水害に会い、多摩川の辺から離れ氷川神社は現在の位置に祀られ、稻荷様も現在地（喜多見7丁目クリーンファーム隣接）に祀られました。

※お稻荷様について

稻荷とは本来は農業の神。【稻なり】の転訛。江戸時代に稻荷興が流行り商業の神ともされ商人の間にも広く信仰された。稻荷の社や祠は全国に数多くあるが、江戸時代中期以降、江戸の宅地開発に際し、開発した土地の神を稻荷として屋敷の守護神に祀ることが行われた。関東周辺では、新田村なので村の鎮守として祀られ、村内の組や同族の神、旧家・有力家の屋敷神として祀られた。京都の伏見稻荷の系統と豊川稻荷の系統がある。稻荷は強い個性を持ち、異なる靈威・靈感を示した。出世・開運・願満・栄・幸・富貴・あるいは福寿・延寿・厄除といった稻荷の名称からは、人々が稻荷に期待したさまざまな利益がうかがわれる。稻荷の流動性や多様性にともなって利益・靈感に結び付いたのである。古代において稻荷信仰は真言蜜教と結びついて神秘性を持ち、現世利益の方向に発転する素地を持っていた。江戸時代の社会の発展に応じて、多様なご利益が求められ、それに対応して靈験を拡大し現代に至っている。

・言い伝えと今まで

当お稻荷様は1184年（平安時代寿永3年）四国で勢力回復し摂津国福原に集結した平家を源範頼・義経が攻め、尾島に敗走させた一の谷の戦いで敗れた武士がスサノウノ尊・お稻荷様を持ち、現喜多見に免れてきて11人衆でかくまい現在の氷川神社とお稻荷様を祀った、と昭和58年5月12日に原田良清叔父さんより聞き取り調査をしております。その書籍が氷川神社に保管されているそうです。しかし、度重なる多摩川の洪水（1468）で江戸氏の館・民家・氷川神社すべて流されその後（1654）修復する際、8代前の原田玄播が京都に行き氷川神社・お稻荷様を多摩川の辺に祀った、その当時の設置はカラムにして下を井戸にして11人衆で式守をしていたと聞きました。多摩川の氾濫のたびに改修しているうちにお稻荷様は氷川神社と分離された。江戸時代には稻荷興が流行り（11人衆の）各農家が各自でお稻荷様を設置するようになりました。稻荷様は現在のところの原田家の敷地に設置、地元のお稻荷様として喜多見農業の発展を願い現在は原田家で式守り祀っている。それで（当家の）移転の際に移設できないのも理解ができたのです。地元に居る人にお稻荷様の近くの居住者が格式の高いお稻荷様であると伝えてくれて是非一度お参りさせて頂きたいと問われて承諾したこともありました。



祖母（ツタ婆さん）がお稻荷様の月の命日にお参りに行き、お祈りを続けていました。お稻荷様も老朽化して惨めになり、父親の死後私が独立し事業を展開する前に住職と相談して建て替え、その際に原田家として祀りました。その後に京都の伏見稻荷大社より御靈を譲り受け稻荷様に御靈を祀り月命日には今迄の安定している事業に対する感謝と共に、喜多見農家の繁栄を祈っております。特別に格式の高いお稻荷様です。

- ※ 確かではないが原田玄播盛康（原田家10代）は、京都御所より、年貢役か何かで派遣され（江戸氏に仕える）。太田道灌（の要請）により江戸氏は江戸の館を明け渡して喜多見の地に移る、その後も長い歴史があり徳川の世になり、江戸氏は喜多見若狭の守となつた。しかし將軍綱吉（4代）の代で喜多見藩は除封され廃藩。原田玄播は部下たちと話し合い、府中大国神社のそばに書道道場を建て【原田塾】と称して地域に密着していたようだ。子弟たちが府中の安養寺に墓を建てたとの事。原田玄播が府中に行く文久3年（1862）には原田家の相続を分家の原田半兵衛の次男原田嘉蔵に相続をさせて、府中で原田塾を設立した。
- ※ 喜多見11人衆（注・室町時代の記録によると、原田・城田・石井・小川・小泉・斎藤・田中・橋本・永見祢・香取・箕輪）の指導者となって、盟主的に幕府の直領地を治めたことで事件が片付いた後、玄播は亡き主君若狭の守の墓（供養塔）を建立した。又自分達の墓（墓石）も主君のそばに並べた。
- ※ 江戸時代に稻荷興が流行り、喜多見11人衆が、自宅に各自がお稻荷様を祀るようになり、その後、原田家が式守をするようになりました。
- ※ 地元の式守をしていたお稻荷様であり、原田家が喜多見6丁目に移転する際、地域の人々お稻荷さんであり移転する事が出来ず、現在の喜多見3100番に残し、現在も、地元の繁栄と安全を祈り、式守をしています。
- ※ 原田嘉蔵は、明治12年9月30日喜多見3110番より当時の武藏に国北多摩郡喜多見村2549番・持主永井次郎左衛門と土地の交換をした。昔の土地の所有者譲渡した権利書も見つかり移転先の状況も理解出来ました。

（記：原田欣明 2024年3月吉日）

細長アキチ の記録 (この仲間の活動の様子)

23年4月23日
開所式



23年5月 1日
作業



23年7月23日
追加開墾



22年6月から地主様（複数）にNPOの趣旨の説明を開始し、了解をいただいて進めております。

農とみどり 予定

9月予定 次回の市場は 9/15 です。

2024 9月						
SUN	MON	TUES	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
					9時半 小澤農園 10時 細長アキチ	
8	9	10	11	12	13	14
	15:30 野の花マルシェ				9時半 小澤農園 10時 細長アキチ	
15	16	17	18	19	20	21
9時半でつくり市場					9時半 小澤農園	
22	23	24	25	26	27	28
9時半でつくり市場 予備（未定）					9時半 小澤農園 10時 細長アキチ	
29	30	1	2	3	4	5
					9時半 小澤農園 10時 細長アキチ	

10月予定

2024 10月						
SUN	MON	TUES	WED	THU	FRI	SAT
29	30	1	2	3	4	5
					9時半 小澤農園 10時 細長アキチ	
6	7	8	9	10	11	12
					9時半 小澤農園 10時 細長アキチ	
13	14	15	16	17	18	19
				15:30 野の花マルシェ	9時半 小澤農園	
20	21	22	23	24	25	26
9時半でつくり市場					9時半 小澤農園 10時 細長アキチ	
27	28	29	30	31	1	2
9時半でつくり市場 予備（未定）					9時半 小澤農園 10時 細長アキチ	

「農とみどり」のオフィシャルサイト
スマホからは、QRコードから
簡単にアクセスできます。



<https://www.nou-midori.org/>

2024 9/15(日) 夏季休暇
8月休み
雨なら9/22(日)で

9:00 ~ 12:00

慶元寺(喜多見4丁目)

やります!
6月~9月は
夏時間で
第3日曜日です

てづくり
市場

マイバッカ
ご持参くださいね!!
丁寧らぶ

地元で採れたお野菜を販売します

宇奈根・喜多見・狛江 辺りの仲間

丹波川神社

ゆきりていってね
お茶 できます

喜多見4
慶元寺
会場
駐車場

いろんな出店 欢迎します

探りたて野菜 の他に
てづくりブン、小物、リサイクル品、陸前
高田の産物 10分間整体・など
出店数は状況で変わります

お気軽にお立ちよりください
幼稚園ひのひのクリスマス大丈夫

私たち、この地の畑を大切に考え、農の継続を願い、保健園行事や慶元寺での
野菜販売(市民の市場)・農に係る映画上映会・畑の手伝いなどを行っています

「農とみどり」のオフィシャルサイト
スマホからは、QRコードから
簡単にアクセスできます。

ご不明な点や、ご意見ご希望はなんなりと、このメールアドレスにお願いします。

Copyright © 2023 せたがや喜多見農とみどり, All rights reserved.

メールアドレス: : info@nou-midori.org

喜多見4-9-7 世田谷区、東京都 157-0057